

## 第3章：コミュニケーション方法について①

聴覚障害者とのコミュニケーション方法には、以下の方法などがあります。

- ◆筆談…紙などに文字を書いて伝える方法
- ◆口話…話し手の唇の動きをもとに、ことばを読み取る方法
- ◆手話…手や表情、上体の動きを用いてことばを伝える方法
- ◆その他…身ぶり、空書き、キュードなど

### ! コミュニケーションに必要な心構え

#### ◆本人の望むコミュニケーション手段を理解する

相手や状況に適したコミュニケーション方法があります。本人に確認しましょう。どの手段を中心に用いるかは、本人の考え方や聴力、失聴年齢、聞こえの状態、教育歴、家庭環境、口話力などによって異なってきます。一般的には複数のコミュニケーション手段を持ち、相手(手話ができるか、口話に慣れているか)や場面(1対1、集団)に応じて使い分けている人が多いようです。

#### ◆軽く合図をし、アイコンタクトをとってから話し始める

聴覚障害者は主に視覚で情報を得るので、まずは視線をこちらに向けてもらいましょう。

#### ◆顔の表情や口元が見えるように気をつける

どのコミュニケーション方法においても重要な要素になります。

#### ◆同時に複数の人が話さないよう注意する

普段通りのペースで話していると、複数の人が同時に話していることが多く、目で追えなくなります。

#### ◆必要に応じてきちんと通訳を手配する

残存聴力での聞き取りや口話には限界があります。

### Q 筆談とはどのようなものですか？

紙に文字を書いて伝える方法です。確実に情報を伝達することができるコミュニケーション手段です。単独で用いるほか、手話や口話と組み合わせ、確認のためにポイントを書くといった利用方法もあります。時間がかかるのが難点ですが、積極的に活用したい手段です。

### ! 筆談のポイント

#### ◆読みやすい文字で書く

特に美しく書く必要はありませんが、読みやすい文字で書いてください。

#### ◆アイコンタクトをとりながら

いくら丁寧に書いても、紙に向かって話していたのでは気持ちは伝わりません。言いたいことが伝わっているかどうか、相手の表情を見て、確認しながら進めてください。

#### ◆曖昧なニュアンスは伝わりにくい

筆談では音声の微妙なニュアンスが伝わりにくいときがあります。曖昧な表現は避けるとともに、疑問文には"?"をつけるなどの工夫をすると伝わりやすくなります。



## 第3章：コミュニケーション方法について②

### Q 口話（こうわ）とは何ですか？

相手の唇の動きを読み取る方法です。補聴器を通して聞こえてくる音や相手の表情、雰囲気、文脈などを総合的にとらえ、ことばを読み取る方法です。1対1の会話や、簡単な内容の場合は手軽に使える手段ですが、「たばこ」と「たまご」など口形が同じで意味の違う言葉や同音異義語、口の動きが小さく読み取りにくい言葉、が多く存在するため、正確に伝わりにくい方法です。



#### 口話のポイント

##### ◆絶えず口元を見せる

口話は口元が見えないと通じません。

★下や横を向かない

★マスクをしたり、手や資料で口を隠したりしない

★教室を明るくし、話し手の後ろから照明(逆光)が当たらないようにする

★話し手が口髭を生やしていたり、たばこをくわえながら話していると読み取りづらい

##### ◆相手が見ていることを確認してから話し始める

話しかけるとときには、軽く相手の肩をたたいたり、相手の顔の前で手をひらひらさせるなどして注意をひき、こちらを向いたのを確認してから話し始めます。

##### ◆口をはっきりと動かす（ただし、誇張しすぎると伝わりにくい）

口をはっきりとあけ、意味のまとまりごとに区切って話します。ただし、1音ずつ区切って話すような話し方は、かえってわかりにくくなりますので、自然なリズムで、ややゆっくりめに話すようにします。

×「こ・ん・に・ち・は」 ○「こんにちは」

##### ◆伝わっているかを確認する

口話に慣れないうちは「気をつけていても、ついいつものペースに…」ということが起こりがちです。こうなると聴覚障害者も遠慮して「ゆっくり話して」とは言えず、聞くことをあきらめてしまいます。常に伝わっているかを確認し、聞こえない人のペースに合わせて話すことが大切です。

##### ◆簡単でわかりやすいことばに言い換える

内容が複雑なときや、口の動きが小さい言葉、口形の似た言葉、普段使わないような言葉などは口の形を読み取ることが難しくなります。2～3回繰り返して通じないときには、違った表現を用いましょう。

##### ◆ジェスチャーや筆談を積極的に併用する

理解を助けるためにジェスチャーや筆談、空中に指で文字を書く空書などを積極的に活用します。

##### ◆口話に頼りすぎない

口話は健聴者には手軽な手段です。しかし、話し慣れた相手との1対1の会話なら問題なく使用できますが、初めて会う人や、口の形がはっきりしない人の場合、適当に想像してしまうことも少なくありません。口形を見ただけでは読み取れない語も多く、話の流れに合わせて推測しなければいけないため、受け取った情報が本当に正しいのがどうかかわからず、聴覚障害者にとっては常に不安な状態にあるのです。



#### 口話体験をしてみよう！

声を出さずに、口話だけで会話をしてみましょう。（その後、筆記やジェスチャーを交えて会話してみよう）口話を読み取りやすくなる工夫は？読み取りづらい言い回しは？などを実際に体験してみましょう。